

○東京都 教育目標 基本方針2
基礎学力の向上を図り、子供たちの個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、国際社会に生きる日本人を育成する教育を推進する。

○練馬区教育目標
教育基本法の精神にのっとり、人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子供の育成を図る。

学校の教育目標
心身ともにたくましい児童に育てる

- よく考え行う子ども
- 明るく元気な子ども
- 思いやりがありやさしい子ども
- なかよく協力し合う子ども

○学校・地域の実態から目指す
学校の敷地は広く、四季折々の花や緑に恵まれた環境にある。また、各学年が十分に活動できる畑もある。開校141年の歴史があり、親子代々通学している家庭がある一方、他地区から新しく住民になった人も多く、家庭環境が複雑化してきている。保護者、地域の学校への関心は高い。児童は素直で活動的である。学習に対する意欲はあるが基礎基本の定着が十分でない児童もいる。全ての児童に基礎学力を定着させ、補充と発展のための学習を組織していきたい。

各教科の指導の重点

国語
○自分の思いや考えを言葉で表現する活動を充実する
○相手を尊重し伝え合う力を高める
○思考力・想像力を養い豊かな心情を育てる社会
○問題解決的な学習活動を充実させる
○社会の一員という自覚をもたせる
○社会に関わるための基礎基本の力を育てる算数
○筋道を立てて考える力を育てる
○計算や作図等の技能を育てる
○数量や図形等の基礎基本の力を育てる理科
○問題解決的な学習活動を充実させる
○自然や生命を愛する心情を育てる
○科学的な見方や考え方を養う生活
○体験や具体的な活動を重視する
○生活上必要な習慣や技能を育てる
○自立への基礎的能力や態度を養う音楽
○豊かな感性を育成する
○表現力を伸長する
○技能の養成をする図工
○豊かな情操を育成する
○表現力・創造力を育成する
○技能の養成をする家庭
○家庭生活をよりよくしようとする態度や家族を愛する心情を育てる
○衣食住への基礎的知識と技能を育てる体育
○健康の増進と体力の向上を図る
○協力、公平などの態度を育てる
○健康安全に対する知識を身に付ける

学校経営計画

◎子供が学ぶ楽しさや達成感を味わうことができる学校

「基礎・基本となる学力の向上と思考力、判断力、表現力の育成を図る。」

- ・年間指導計画に基づいた「週ごとの指導計画」の作成提出
- ・基礎的、基本的な学習内容の定着
- ・規律ある学習習慣の確立
- ・研究、研修の充実

道徳教育の指導の重点

- 「よく考え行う子ども」を育てる。
- 児童の実態に即し、計画的に考え、議論し、問題解決的な学習や体験的な学習を行うことによって各教科、領域で行う道徳教育の深化、統合、補充ができるようにする。

キャリア教育の指導の重点

- 自分のよさや得意分野に気付き、それらを生かそうとする意欲や態度をもつ。
- 情報活用能力を育てる。
- 職業に対する基本的な知識理解を得る。
- 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度と勤労観の育成を図る。

特別活動の指導の重点

- 児童の自発的、自治的な実践活動を通して自主性と個性の伸長を図り、集団の一員としての自覚を高める。
- 学年、学級、兄弟学年などの異年齢集団の中で、心の交流を図り、望ましい人間関係を育成する。
- 学校行事や集会活動を通して、学校生活の充実のために進んで活動する意欲や態度を育てる。

生活指導の重点

- 生活の基本的習慣や基本的行動様式の定着を図り、心身の調和のとれた人格の形成を図る。
- 豊かな人間関係を育み、豊かでけじめのあるたくましい児童を育てる。
- 一人一人の個性や能力を伸ばし、生涯にわたり自らを高めていく素地を養う。
- 社会の一員としての自覚を高め、自己実現を図る能力と態度を培う。

外国語・外国語活動の重点

- 日本や外国語の言語・文化と接する体験的な活動を行い、幅広い言語に関する能力や、国際感覚の基盤を養う。
- 「外国語を使って主体的にコミュニケーションをとろうとする児童の育成」を研究主題に掲げ校内研究に取り組む。

本校の確かな学力

本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

- 学ぶ意欲
・児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習に対する関心・意欲を高める。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着と向上
・校内共通理解の下、返事や挨拶、話の聞き方、学習用具の準備、家庭学習の習慣等、規律ある学習習慣を確立させる。
・基礎的・基本的な学習内容の定着のため、児童自らが主体的、協働的に学ぶ授業を目指す。児童が考え、表現したり交流したりする指導を行う。
- 豊かな人間性
・互いに学び合いながら、児童一人一人の考え方を生かせる学習活動を設定し、創造的な思考力や適切な判断力を育てる。

総合的な学習の時間の指導の重点

自ら課題を捉え、学び、考え、判断し、試行錯誤の体験をしながら、主体的に問題解決できる能力を育てる。また、自分のよさや可能性に気付き、自らの生き方を考えることのできる能力を育てる。

- 学校や地域の自然環境、施設、身近な人々に目を向けさせ、実際に調べたり体験したりする探求的な活動を重視し、栽培活動、体験的な活動、創造的な活動の充実に努める。
- 情報活用能力を育成するため、情報の受信、収集、整理、発信する学習を定期的に行う。

本校の授業改善にむけた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果や授業による評価を分析し、各学年・各教科ごとに指導の重点を設定し、指導法の改善工夫に向けた具体的な取り組みを実践する。 ○<u>体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。</u>基礎的基本的な内容の確実な定着と向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数学習やT.Tでの学習を取り入れ、課題別・習熟度別学習の工夫を図る。 ○積極的に栽培活動などの自然体験や国際理解教育の活動を取り入れ、探求心を大切に学習を行う。 ○「書くこと」の日常化の一つとして、毎週金曜日の朝の時間に「書きたいむ」を実施し、基礎力の向上と意欲の向上を図る。 ○体育朝会を充実させ体育授業に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「外国語を使って主体的にコミュニケーションをとろうとする児童の育成」をテーマに研究を進める。低学年分科会、中学年分科会、高学年分科会を作り、研究授業を行い、確かな指導法を身に付けていく。 ○先進実践校や区内のモデル校に学ぶ。 ○担任は授業を2回以上公開し、授業力を向上させる。 ○毎月1回以上、校内の教員同士が指導法を学び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果を全校で分析し、各学年の傾向とも照らし合わせて全体の見直しをする。 ○各学年で、各教科の目標に準拠した評価を計画的に行っていく。 ○学力調査の結果の分析や評価したことを学校ホームページに載せ、外部からも意見がいただけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開日等に保護者・外部の方たちのアンケートを実施する。これらの評価を授業改善、学校経営に生かしていく。 ○地域の方々と積極的に交流を図るように努力する。(生きる力を育む活動) ○学校評議員の評価を重要な項目として生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区別協議会において各学校の生活面・学習面の状況を把握するとともに、課題改善カリキュラムを作成し、活用を図る。また、学習規律や問題解決学習等の学び方において、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を検討していく。 ○小中一貫教育実践校として、中学校での体験授業を計画・実施する。

期	項目 学年	学習内容	問題解決の能力を育てること	実験・観察の技能を育てること	カリキュラム改善の視点
I 期	第3学年	○物と重さ ・形と重さ ・体積と重さ	◇物質の性質について比較しながら問題を見だし、差異点や共通点について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。。	◇物の性質について、体感を通して比べる。 ○物の重さ、体積、形などの関係を手応えなどの体感や身近な物をものさしにして比べる。 ○身近な物を適切に使って安全に実験をする。 ・デジタル秤の使い方 ・てんびんの使い方	事象を大きさ、重さなどの直接感じ取ることのできる視点で【比べながら】調べる。 3年生の段階では、「粒子」としては扱わず、形のある物の大きさや重さとしてとらえる。イメージ図は見えないものを想像する程度に抑える。 手で小さくちぎるなどの操作を通じて、形を変えても物自体の重さなどは変わらないという実感を伴った考えをもてるようにする。
	第4学年	○空気と水の性質 ・空気の圧縮 ・水の圧縮 ○金属、水、空気と温度 ・温度と体積の変化 ・温まり方の違い ・水の三態変化	◇空気や水の性質や空気・水・金属の温度についてその要因とのかかわりに問題を見だし、変化と関係する要因について考察し、問題を解決する力を育てる。	◇空気や水の性質や空気・水・金属の温度について、体積の変化や力(手ごたえ)と関係付けて調べる。 ・空気や水を押し縮める実験 ・空気、水、金属を温めたり冷やしたりする実験 ・水の三態変化の実験 ○理科室の設備や実験器具の使い方を覚え、安全に実験する。 ・ビーカーや試験管、フラスコなどのガラス器具の使い方 ・温度の測定 ・マッチの安全なすり方 ・アルコールランプによる加熱	体積の変化や温度の変化などの事象と変化の要因を【関係付けながら】調べる。 温度や体積、手応えなど実際に感じ取れるもの(実体としての「粒子」)としてとらえる。 閉じ込めた空気は見えなくても手ごたえや石鹼水の膜の変化に気付かせ、目に見えなくてもそこに物質があることが分かるようにする。 具体的には、イメージ図を用いて、自分の考えを述べたり、友達の考えを理解したりする。
II 期	第5学年	○物の溶け方 ・物が水に溶ける量の限度 ・物が水に溶ける量の変化 ・重さの保存	◇物の溶け方についてその要因との関係に問題を見だし、条件に着目して計画的に追及し、量的変化や時間的変化について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。	◇物のとけ方について溶ける量や温度、水溶液の重さなどの条件を制御して調べる。 ・食塩、ホウ酸、ミョウバンなどの薬品の取扱い ・上皿天秤やデジタルスケールを使った計量 ○物の性質、働きについて、条件の違いに着目しながら観察する。	5年生では【条件を正しく制御し】、結果の違いから事象の原因や法則を考えることができるようにする。 「物の溶け方」では「見えなくなっても重さは消えない。」ことから、「水に食塩やホウ酸が溶ける」ようすを粒子を使ったイメージ図などで表現できるようにする。
	第6学年	○燃焼のしくみ ・燃焼のしくみ ○水溶液の性質 ・酸性、中性、アルカリ性 ・気体が溶けている水溶液 ・金属を変化させる水溶液	◇物の性質・働きについてその要因との関係に問題を見だし、推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。	◇物の性質、働きについて、見えないものの変化や性質を推論しながら調べる。 ○燃焼の仕組みについて物や空気の変化について推論をもとに実験を行う。 ・実験用気体の集め方や使い方 ・気体検知管の使い方 ○いろいろな水溶液の性質や働きを推論をもとに実験を行う。 ・リトマス紙の使い方	6年生では燃焼や薬品による変化を【推論的に】とらえて、気体の変化や酸・アルカリの反応などを図や言葉で表現できるようにする。またイメージ図の根拠を自分なりの考えでもてるようにする。
	中学校 第1学年	○物質の姿 ・身の回りの物質とその性質 ・気体の発生と性質 ○水溶液 ・物質の溶解 ・溶解度と再結晶 ○状態変化 ・状態変化と熱 ・物質の融点と沸点	◇身のまわりの物質についての観察・実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる。	◇物質の状態や変化について粒子のモデルと関係付けて考える。 ○物質の区別での変化や現象を観察、記録する。 ・ガスバーナーによる加熱。・質量の測定 ・物質を確定させるための実験。(石灰石、リトマス紙など) ○物質の溶解や再結晶について実験を通して調べる。 ・水溶液中で溶質が均質になることを「粒子のモデル」を使って説明する。 ・物質には固有の性質と共通の性質があることを理解する。 ・再結晶、溶解度などについて理解する。	中学1年生では、実験で観察できる水溶液の様子などを「粒子」をモデルと関連づけて見方、考え方を養う。 水溶液中で溶質が均一になっている様子や状態変化を「粒子のモデル」と関連づけて見方、考え方を養う。
III 期	第2学年	○物質の成り立ち ・物質の分解 ・原子 ○化学変化 ・化合 ・酸化と還元 ・化学変化と熱 ○化学変化と物質の質量 ・化学変化と質量の保存	◇化学変化と原子・分子についての観察・実験の結果を分析してを通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解すると共に、これらの事象をモデルと関連づける見方や考え方を養う。	◇化学変化について原子、分子のモデルと関係付けて考える。 ○化学変化の実験の基本的な操作を習得する。 ・化合の実験 ・酸化・還元の実験 ・化学変化と熱の実験 (酸化銀の分解、鉄と硫黄の化合、銅の酸化、化学変化による温度変化 など)	物質の性質を「粒子のモデル」を使って理解する。 分子・原子という概念を使って、物質を統一的に説明できるようにする。(「粒子の統一的理解」)
	第3学年	○水溶液とイオン ○酸・アルカリ・とイオン ○エネルギー ○科学技術の発展 ○自然環境の保全と科学技術の利用	◇化学変化とイオンについての観察・実験の結果を通して、事物や現象をイオンのモデルと関連づけてみる見方や考え方を養う。	◇化学変化についてイオンのモデルと関係づけて考える。 ○酸・アルカリの性質を調べる実験。 ・水溶液に電流を流す実験。(塩化銅水溶液の電気分解など) ・中和における変化の観察。 ○水溶液とイオンの実験 ・水溶液の電気伝導性 ・化学変化と電池 ○身のまわりにある科学技術の確認と新技術について知る。	中学2年生では実験で観察できることだけでなく、実験などでは観察できない事象についても、原子・分子のモデルなどを使いながら物質の性質について理解できるようにする。 中学3年生では、酸・アルカリの性質や電気分解などをイオンのモデルと関連づけて見方、考え方を養う。